

## モノ・コトづくりのクオリティの追求

オカムラグループは、「よい品は結局おトクです」をモットーに、グローバルな視野で品質と安全性の向上に努めると同時に、地球環境にも配慮し、お客さまのニーズに的確に対応しながら、オフィスをはじめ教育・医療・研究・商業・物流施設などさまざまなシーンにおいて、製品のあるべき姿と最適な空間づくりを追求し続けます。

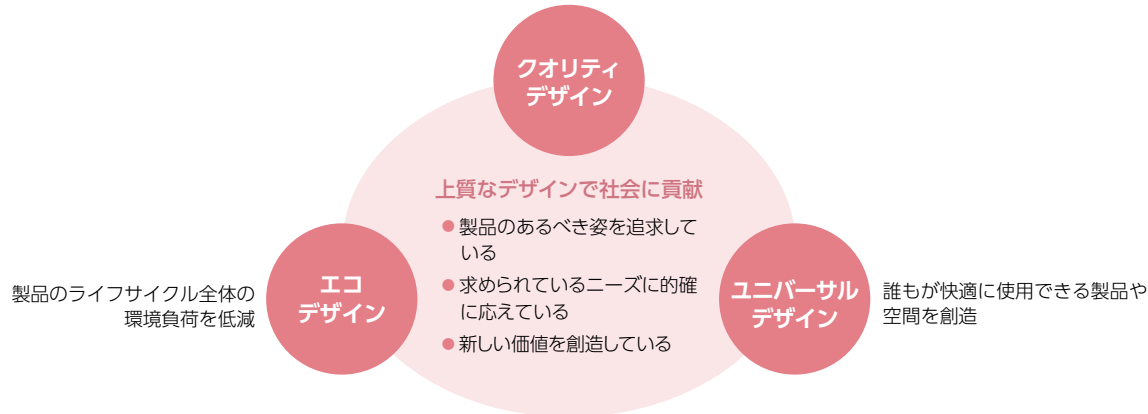
### オカムラグループの デザインポリシー

オカムラグループは、誰もが豊かさを実感でき、次代へよりよい環境を引き継げるよう、ものづくりにこだわり、上質なデザインの実現を目指しています。

創業以来「人間の環境づくり」をテーマに培ってきたハードとソフトに関するノウハウをベースに、さまざまなシーンにおいて魅力ある環境を創造していきます。その実現のためには、「クオリティデザイン」「エコデザイン」「ユニバーサルデザイン」の3つの視点が重要であるという考えに基づき、製品開発を進めています。

#### オカムラグループのデザインポリシー

お客さまにとって真に価値のある製品を追求



### クオリティデザインの追求

オカムラグループは製品の本質を追求し、お客さまにとって真に価値ある製品を提供することを目指しています。製品のあるべき姿を求めて、ものづくりを極め、魅力ある新たな価値を創造します。具体的には、安全性の確保はもとより、人間工学\*に基づいた設計をはじめ、快適性の向上、創造性を高める環境の実現などに取り組み、常にお客さまのニーズに的確に応えられるような製品開発を行っています。

\* 人間工学：人間の身体的、認知的、組織的な特性を理解し、さまざまな製品・環境・サービスに適応させるための科学分野

### エコデザインの追求

オカムラグループは、原材料の選択から使用後の処理まで、製品のライフサイクル全体において環境負荷がより少ない製品を開発し、お客さまに提供することで、持続可能な社会づくりに貢献します。そのために、製品の企画・デザイン・設計の各段階で製品アセスメント\*を実施するとともに、独自の環境基準による認定を行っています。(関連 [▶ P.57](#))

\* 製品アセスメント：より環境負荷の少ない製品を開発するために、製品の開発、設計段階で、その製品が環境に与える影響を評価すること

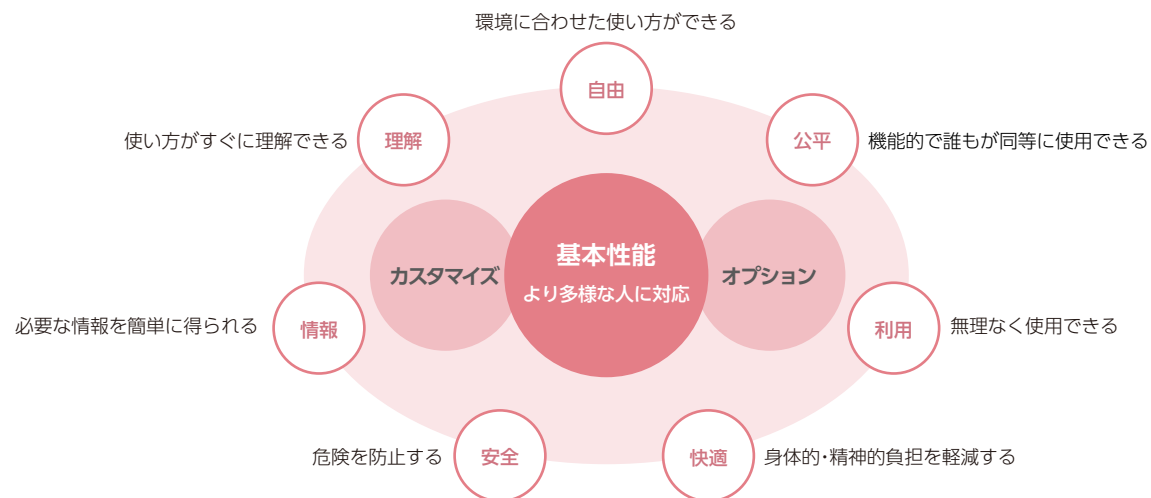
## ユニバーサルデザインの追求

オカムラグループは、誰もが豊かさを実感できるデザインを追求し、製品と空間を使用すると考えられる多様な人を想定して開発を行っています。製品の基本性能を高めるとともに、オプションの追加やカスタマイズにより、安全性や快適性、適応性、分かりやすさ、情報へのアクセスなど、全てのユーザーにとって使いやすい製品と空間を提供することを目指しています。

### ユニバーサルデザインの普及に向けた取り組み

オカムラは、一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会（IAUD）に設立時より参画し、国際会議への協賛や協議会活動への支援を行っています。同協議会は、ユニバーサルデザインのさらなる普及と実現を通じた、社会の健全な発展と豊かな暮らしづくりを目指して活動しています。

### オカムラグループのユニバーサルデザインの考え方



## デザインポリシーに基づくモノづくり

### フラッグシップシーティング

#### 「Contessa (コンテッサ)」発表から20周年

オカムラのフラッグシップシーティングである「Contessa (コンテッサ)」は、世界で通用する革新的なオフィスチェアを目指して、イタリア・トリノのデザインファーム「ITALDESIGN (イタルデザイン)」とのコラボレーションにより生まれました。多様なワークシーンや姿勢に対応する優れた機能と、独創的なフォルムの唯一無二のメッシュチェアを探求し、2002年にドイツ・ケルンで開催された国際オフィス家具専門見本市「ORGATEC」にて発表。流麗なアルミフレームと透過性の高いメッシュの軽やかさなど、20年経っても色あせない普遍的なデザインを創出しました。2016年には、グローバル化やワークスタイルの多様化に対応するため、機能や強度をアップグレードし、「Contessa II (コンテッサ セコンダ)」に生まれ変わりました。そのデザインと使い心地の良さは国内・海外から高く評価され、数多くのデザイン賞を受賞しています。

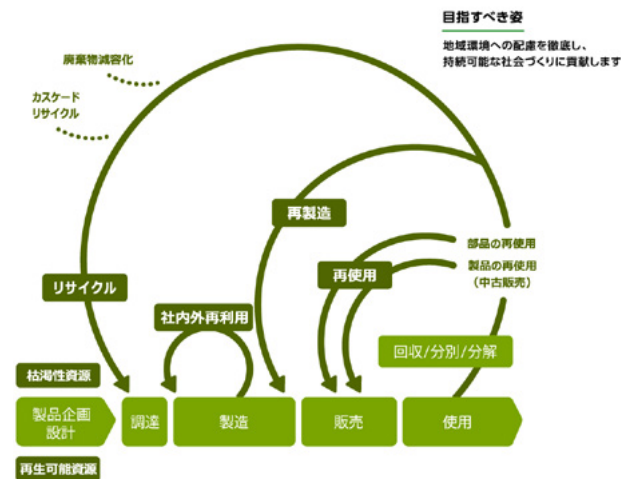


フラッグシップシーティング「Contessa II (コンテッサ セコンダ)」

### オカムラのものづくり思想 「サーキュラーデザイン」

オカムラグループは、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の概念に基づき「サーキュラーデザイン」の考え方を策定しています。製品企画・設計から調達、製造、販売、メンテナンス、リユース・リサイクルに至るまでの製品ライフサイクルの中で、限りある資源をより長く有効に使用し、廃棄物の発生を最小化するものづくりを目指すことで、環境負荷を低減し、持続可能な社会づくりに貢献します。（関連 ▶ P.57）

#### 製品開発におけるサーキュラーデザイン思考

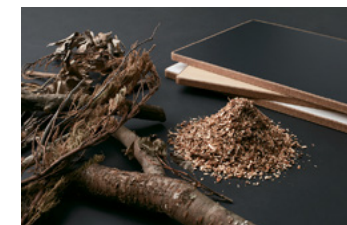


### 「未利用材」を新たなマテリアルとして 製品に活用する取り組みを推進

未利用材とは、森林整備の際に発生した不要な樹木や切り捨て材のうち、未使用の材のことです。この未利用材の低質材や根元部、曲がり材、枝、葉など、今まで家具に使われてこなかった部分を積極的に活用する取り組みを進めています。未利用材の活用は、森林整備に寄与するとともに、災害時の流木などによる被害の防止など、社会課題の解決にもつながります。

未利用材の知見と技術を有する京都府のエースジャパン株式会社と協業し、国内の未利用材やダムにたまった流木などを資源として回収、チップ化・成型することで製品の天板となります。完成した天板は、エッジを柔らかくして縁材をなくし、チップになった木の風合いを感じることができるようデザイン。クリエイティブファニチュア「SPRINT (スプリント)」のテーブル天板として製品化を実現しました。

地産地消を目指し、未利用材の天板を使用した製品を、オフィスに限らず学校用などにも展開していきます。



左から、未利用材（枝・葉など）、チップ、未利用材から作った天板



未利用材天板を使用したクリエイティブファニチュア「SPRINT (スプリント)」のテーブル

## 働き方の変化に対応した新製品の開発

働き方の多様化が進み、仕事の内容に合わせて時間や場所を選んで働く「Activity Based Working (ABW)」やリモートワークが急速に浸透しました。時間や場所にとらわれない柔軟な働き方である一方、一人ひとりの様子がわかりにくくなり、チームメンバーとのコミュニケーション不足やメンバーの状況が把握しにくくなるなど、チーム内のつながりが課題となっています。オカムラはそれらの課題解決を目指した、さまざまな製品を開発しています。

建材製品「Lives Architectural Products (ライブス アーキテクチュラル プロダクツ)」3製品は、オフィス内のルーム・イン・ルームとしてゆるやかに空間を仕切ったり、天井に取り付けたレールに沿って自由な位置に設置したり、パネルにデスク

や棚、照明を取り付けてすっきりとした空間を構成するなど、それぞれの特徴を生かして、オフィス内に人数や目的に合わせた多様な空間を創出できます。これによりコミュニケーションを促しチームメンバーとのつながりを強めるための空間をつくれます。

ソファやミーティングテーブル、シェルフなどで構成されたチームメンバーの溜まり場となるスペースと、溜まり場から外へつながる縁側を組み合わせたユニットであるクリエイティブファニチュア「WORK VILLA (ワークヴィラ)」は、チームの溜まり場としてほどよいこもり感を有しつつ、内と外を縁側でつなぎコミュニケーションを広げます。

コミュニケーションを促進し、仲間とのつながりを感じながら働けるオフィス空間を実現します。

## ウェブ会議の増加に対応した製品開発

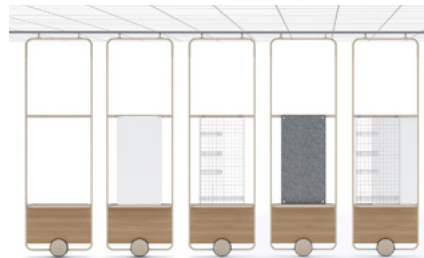
テレワークが広がり、ウェブ会議が急速に普及しました。ウェブ会議の機会が増える一方、個室の数は限られているため、オープンスペースで行うことも多くなっています。ウェブ会議では、置き型マイクスピーカーの音声が周囲に聞こえる、マイクに向かって大きな声を出す必要がある、マイクが周囲の音を拾う、ハウリングが起こるなど、多くの問題があり、結果として声が聞き取りにくく、コミュニケーションが円滑に進まないという音に関する課題があります。

オカムラが開発したウェブ会議用音声コミュニケーションツール「TALKHUB (トークハブ)」は、独自の音声制御技術により複数のウェアラブルマイクスピーカーを接続し、双方向での音声処理を可能にしました。複数のマイクとスピーカーの音声信号をBluetooth®\*接続で送受信して、最適な音声信号として1つの信号にまとめ、パソコンに連携することで、ウェブ会議でのハウリングやエコー、音漏れの課題を解決しました。

\* Bluetooth®ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。



「Lives Post Beam (ライブス ポストビーム)」



「Lives Slide Panel (ライブス スライドパネル)」



「Lives Partition (ライブス パーティション)」



クリエイティブファニチュア「WORK VILLA (ワークヴィラ)」

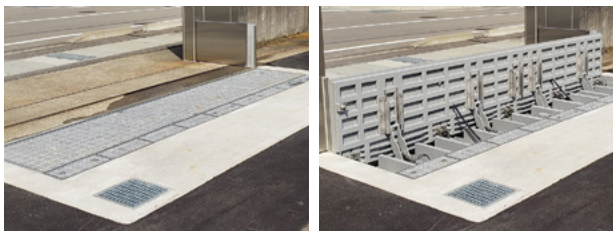


ウェブ会議用音声コミュニケーションツール「TALKHUB (トークハブ)」使用イメージ

## 防水板に業界初の自己診断機能を搭載し、 保守メンテナンスのサイクルにつなぐ

気候変動を背景とする記録的な大雨の増加や台風の大型化などにより、河川の氾濫や都市型水害といった水による被害が増加しており、建物の中や地下などへの浸水を防ぐ防水設備の需要が高まっています。起上式防水板はビルやマンションなど建物の入り口や、地下駐車場や地下鉄などの地下出入り口に設置することにより浸水を防ぐ防水板の一つです。通常時は入り口床面と一体になっており、水害発生時に起上させて入り口をふさぎ浸水を防ぎます。防災設備の機器保全のために、定期的な点検が必要ですが、点検時は防水板を起上させるため、出入り口を一定時間ふさいでしまいます。そのため、点検は通行の少ない早朝や夜間などに行わなければならないが、また、電動の場合は作業員の手で各機器の電圧・電流値を測定する必要があり手間がかかるなどの課題がありました。

オカムラは、業界初の自己診断機能を搭載した電動起上式防水板「SuiZin（スイジン）」を開発し、防水板を起上することなく情報を取得でき、点検を可能にしました。最適な保守メンテナンスのサイクルにつなげ、必要な時に確実に使用するための防水機能を維持し、建物や地下を浸水から守ります。

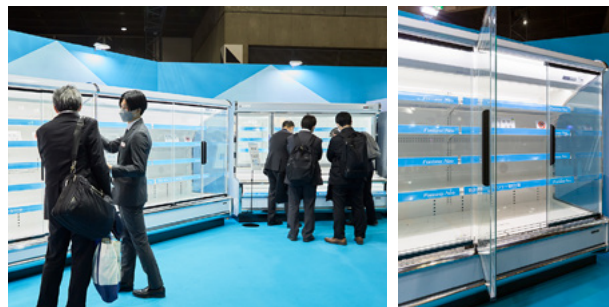


電動起上式防水板「SuiZin（スイジン）」（左：通常時 右：防水板起上時）

## 店舗での省エネ・省力化を意識した製品開発

スーパーやドラッグストアなどで食品を陳列する冷凍冷蔵ショーケースは、商品が手に取りやすい、扉のないオープンタイプが主流でした。近年の電気代高騰から、小売業でも省エネの関心が高まり、冷却効果がより高い扉付きケースの需要が増えています。

オカムラでは、既存のオープンタイプの冷凍冷蔵ショーケースに後から扉を取り付けることが可能な「後付け扉」を開発しました。「後付け扉」の採用によりオープンタイプに比べて冷凍負荷を約30%低減します。全ての製品に対応できるわけではありませんが、オカムラの主力製品である「フォンターナ ネオ」シリーズの多段ケースに取り付けが可能です。既存ショーケースの上下にフレームを追加し「後付け扉」を取り付けます。扉自体はフレームが無く、買い物客の庫内商品の視認性を確保しています。「後付け扉」の効果は、省エネや庫内温度の均一化を図ることができるだけでなく、店舗の開閉店時のナイトカバーオペレーションも不要になり、省力化にも貢献します。



商談展示会「第57回スーパーマーケット・トレードショー 2023」での「後付け扉」の展示

## 物流現場の自動化・省人化に向けた ソリューションの提供

物流現場では、多頻度小口化など物流サービスの多様化と労働力人口の減少により倉庫内作業の自動化、省人化のニーズが高まっています。モノを単純に動かす・運ぶという作業の自動化は、従来の無人搬送車（AGV: Automatic Guided Vehicle）でも可能ですが、床面に軌道となる経路テープやマーキングが必要なため走行軌道の変更に手間がかかる、軌道上の障害物を避けて走行できないといった課題がありました。特に、カゴ車の移動、搬送は、かなりの重量物であることに加え、数量、回数が多いことから、多くの物流現場で自動化が課題となっていました。

オカムラは、自律移動ロボット「ORV（オーアールブイ）: Okamura Robot Vehicle」を開発。「ORV」は、センサーで周囲の環境を把握し周辺地図の作成と自己位置推定を行うSLAM（Simultaneous Localization and Mapping）技術の活用と、AI（人工知能）を搭載しています。カゴ車を自動認識して取りに行き、カゴ車の片側をつかみ上げて目的地まで障害物を避けながら搬送します。けん引ではないためカゴ車と一体になりその場で旋回するなど小回りが利き、バック走行が可能のため狭い空間でも隙間なくカゴ車を整列配置させることができます。物流施設において、スタッフの作業負担を軽減し、搬送自動化による生産性向上を図ります。



自律移動ロボット  
「ORV（オーアールブイ）」

## オカムラ独自の基準による、製品へのマーク表示

オカムラでは、独自の取り組みを表すマークを製品とともにカタログに表示し、お客さまへの提案に生かしています。

人が健康でかつ快適に過ごせる場であるかどうかを評価するシステムであるWELL 認証\*が、オフィス空間の評価基準として国際的に広がりを見せています。オカムラでは、WELL 認証の取得をサポートするため、健康的に働く場を提案する製品に「WELL PLUS」マークをつけてお客さまに提案しています。

また、環境に配慮した製品として、オカムラ独自の環境基準を満たした製品に「GREEN WAVE」「GREEN WAVE+ (プラス)」マークを表示しています。(関連 ▶ P.58)

\* WELL 認証 (WELL v2) : 空間のデザイン・構築・運用に「人間の健康」という視点を加え、より良い住環境の創造を目指したオフィス空間等の評価システム



**WELL PLUS**

「WELL PLUS」マーク

**GREEN WAVE**

**GREEN WAVE+**

「GREEN WAVE」「GREEN WAVE+」マーク

## カーボンオフセットプログラム対象製品の拡充

オカムラは、オフィス製品の原材料調達から製造、輸送、廃棄までの製品ライフサイクルを通じて、温室効果ガスの排出量を正しく計算し、排出量と同等の排出権 (クレジット) 付きの製品をお客さまに提供する「カーボンオフセットプログラム」を2022年1月にスタートしました。2022年11月には、国内の間仕切建材メーカーで初めて建材製品を対象製品に追加し、拡充を進めています。お客さまは対象製品の購入により、温室効果ガスの削減活動に寄与することができます。

オカムラでは、原材料の購入、お客さまへの製品納入において効率的な輸配送を実施するとともに、工場における省エネ対策、使用電力の再生可能エネルギーへの転換等を進め、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。こうした取り組みの結果、削減できなかったCO<sub>2</sub>排出量を算出し、排出権を通じてオフセットしています。

## 「カーボンオフセットプログラム」の流れ



## 社会からの評価

オカムラグループは、ものづくりにこだわり、お客さまに満足いただける製品を社会に送り出してきました。機能性や安全性、耐久性、信頼性などと同時に外観の美しさを重視し、製品のあるべき姿を追求する、という開発に対する姿勢は国内外で高く評価され、これまでに数々の表彰や選定を受けています。2022年度も多くの製品が国内外の表彰制度等において高い評価を受けました。

### HiP Awards at NeoCon\*

#### HiP Awards 2022 at NeoCon

**ワークプレイス:カンファレンスシーティング部門Winner 受賞**  
(2022年6月)

- オフィスシーティング「CYNARA(シナアラ)」

\* HiP Awards at NeoCon: 米国のINTERIOR DESIGN誌が主催し、2022年で9回目を迎える表彰プログラム。北米最大の商業インテリアの展示会「NeoCon」発表製品とデザイナーなどの業界で活躍する人々の中から選定され、カテゴリー別に革新的な製品や業界への功績を称えている

### キッズデザイン賞\*

**第16回キッズデザイン賞 奨励賞  
キッズデザイン協議会会長賞 受賞**  
(2022年9月)

- 在宅ワーク向けファニチュア「Parabel(パラベル)」チェア

**第16回キッズデザイン賞  
子どもたちの安全・安心に貢献する  
デザイン部門 受賞** (2022年8月)

- 在宅ワーク向けファニチュア「Parabel」チェア
- 在宅ワーク向けファニチュア「Parabel」デスク

\* キッズデザイン賞:キッズデザイン賞は、「子どもたちが安全に暮らす」「子どもたちが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」という目的を満たす、製品・サービス・空間・活動・研究の中から優れた作品を選び、広く社会に発信していくことを目的に2007年に創設された



### グッドデザイン賞\*

**2022年度  
グッドデザイン・ベスト100 選定**  
(2022年10月)

- ポータブルバッテリー「OC(オーシー)」
- 電動昇降テーブル「Swift IV(スイフト クアトロ)」

**2022年度 グッドデザイン賞 受賞**  
(2022年10月)

- クリエイティブファニチュア「WORK CARRIER(ワークキャリアー)」
- モジュラーパネルシステム「RECONE(リコネ)」
- ミーティングチェア「ena(エナ)」
- 3Dプリンターで製作するバイオマスプラスチック素材の家具「Up-Ring(アップリング)」
- オカムラが開発したサステナブルなファブリック「Re:net(リネット)」

\* グッドデザイン賞:公益財団法人日本デザイン振興会が主催する1957年に創設された日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨の仕組み。デザインを通じて産業や生活文化を高める運動として、国内外の多くの企業やデザイナーが参加している



### “超”モノづくり部品大賞\*

**2022年“超”モノづくり部品大賞 日本力(にっぽんぶらんど)賞 受賞**(2022年11月)

- タスクシーティング「Spher(スフィア)」に搭載の「椅子の体格感知部品」

\* “超”モノづくり部品大賞:モノづくり日本会議、日刊工業新聞社が主催し、日本のモノづくりの競争力向上を支援するため、産業・社会の発展に貢献する「縁の下の力持ち」的存在の部品・部材を対象に表彰を行う制度。2003年に「モノづくり部品大賞」として創設され、2008年から現名称となり、「機械・ロボット」「電気・電子」「モビリティ関連」「環境・資源・エネルギー関連」「健康福祉・バイオ・医療機器」「生活・社会課題ソリューション関連」の6分野が表彰対象となっている



### German Design Award\*

**German Design Award 2023 受賞**  
(2022年12月)

- オフィスデスク「REGAS(リーガス)」
- ラウンジファニチュアコレクション「Phlox(フロックス)」

\* German Design Award: ドイツデザイン評議会により2012年に設立された顕彰制度で、「Excellent Product Design」と「Excellent Communications Design」、「Excellent Architecture」の3つの部門で構成。優れたデザインとして一定の評価を受けた作品の中から、ドイツデザイン評議会が参加作品をノミネートするため、ノミネート自体が名誉とされる



### GOOD DESIGN\*

**GOOD DESIGN 2022  
(Furnitureカテゴリー) 受賞**(2023年1月)

- オフィスシーティング「CYNARA(シナアラ)」

\* GOOD DESIGN: The Chicago Athenaeum: Museum of Architecture and Design (シカゴ・アテナイオン建築・デザイン博物館)の主催により1950年から始まった、世界で最も歴史の長い国際的に権威のあるデザイン賞。革新的なデザイン、新技術、フォルム、素材、アーキテクチャ、コンセプト、機能、審美感などの面から専門の審査員によって審査が行われる



## iF DESIGN AWARD\*

## iF DESIGN AWARD 2023 受賞

(2023年4月)

- ポータブルバッテリー「OC(オーシー)」
- 3Dプリンターで製作する  
バイオマスプラスチック素材の家具  
「Up-Ring(アップリング)」
- 在宅ワーク向けファニチュア  
「Parabel(パラベル)」チェア

\* iF DESIGN AWARD : iF International Forum Design GmbHが主催し、毎年全世界の工業製品の中から優れたデザインに与えられる世界的な権威のある賞



## Red Dot Award\*

## Red Dot Award:

## Product Design 2023 受賞

(2023年4月)

- 建材製品「Lives Post Beam  
(ライプス ポストビーム)」

\* Red Dot Award:ドイツの「Design Zentrum Nordrhein Westfalen(ノルトライン・ヴェストファーレン・デザインセンター)」が主催し、1955年に創設された国際的に権威あるデザイン賞の一つ。同賞は、プロダクトデザイン、ブランド&コミュニケーションデザイン、デザインコンセプトの3分野からなり、それぞれ大会が行われている



reddot winner 2023

## Universal Design Award\*

UNIVERSAL DESIGN EXPERT 2023,  
UNIVERSAL DESIGN CONSUMER 2023  
受賞 (2023年5月)

- シーティング「Spectra(スペクトラ)」

\* Universal Design Award : ドイツのInstitute for Universal Designが主催し、誰もが使いやすいというユニバーサルデザイン面での優れた特徴に加えて、革新性や市場性なども加味して受賞製品が選定される。審査はユニバーサルデザインの専門家グループと一般消費者約80名が行い、それぞれ「UNIVERSAL DESIGN EXPERT」と「UNIVERSAL DESIGN CONSUMER」を選定する「UNIVERSAL DESIGN competition」より「Universal Design Award」へ今回から名称変更



ウェブサイト「Make with オカムラのものづくり」では、オカムラのものづくりにおける企画・研究・リサーチ、デザイン、製造の過程や様子、さまざまな製品の開発に至る経緯や想いが語られる「Product Story」、受賞したアワードと製品の一覧「Award」などを掲載しています。



Make with オカムラのものづくり

<https://www.okamura.co.jp/company/products/makewith/>

## TOPICS

子どもがいる家庭の利用に配慮した  
在宅ワーク向けファニチュア「Parabel (パラベル)」

在宅ワーク向けファニチュア「Parabel (パラベル)」は、在宅ワーク用として家具に座り心地や機能性を求めるとオフィス向けのデザインがインテリアになじみにくいという課題を解決するために開発されました。在宅ワークをする機会が増え、家も働く場としての役割を持つようになり、書斎など働く環境が整った場所ではなくリビングやダイニングの一角で仕事をするケースも多くなりました。

「Parabel」チェアは、オフィスと変わらず快適に働けるようコンパクトながらも優しく包み込むような座り心地を実現しています。機構部を樹脂カバーでふさぐ、防汚加工でメンテナンスがしやすい張材や座面カバーを取り外して洗濯できるタイプをバリエーションに持つなど、子どもがいる家庭の利用に配慮しています。「Parabel」デスクは、丸みのある脚で天板の四隅を包み込み、子どもの頭が天板の角にぶつかりにくくしています。配線受けは柔らかいフェルトを使用し、脚に沿って配線をきれいに収納できる脚カバー付きになっており、子どもがコードに引っ掛かる心配がなく、机の下に潜ってぶつかっても安全です。

このような点が評価され、「Parabel (パラベル)」は、「第16回キッズデザイン賞」を受賞、またチェアは「奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞」を受賞しました。

在宅ワーク向けファニチュア  
「Parabel (パラベル)」